

令和5年度 学校評価報告書

学校教育目標		自他を大切に学び合い、心豊かで、たくましい児童の育成		重点目標		よく考え、行動する児童の育成 ○多面的、多角的に考え、表現できる子供(学力調査全国標準得点以上) ○自他の立場から考え認め合い、よりよく働きかけ合う子供(学校生活アンケート自己概念1.0以上) ○目標に向かって困難さを乗り越え粘り強く取り組む子供(体力・運動能力調査の総合評価「D」「E」の割合25%未満)	
重点目標	評価計画		自己評価		学校関係者評価		改善計画
	重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価結果(成果○と課題△)	評価コメント	改善策(案)	
重点目標	学力の向上 ○授業づくり ○学力基盤づくり ・学力調査全国平均得点以上 ・学校生活アンケート「学習意欲」1.0以上/1.5 ・CD層割合20%減	○主体的に問題解決する授業 ・課題解決型学習の単元構成 ・学ぶ意欲を高める導入・終末づくり(問いと練習) ・個に応じた授業づくり(ICTの活用、少人数授業の推進) ○学力向上プランに基づく授業改善 ・公開授業・学力向上研修後のプラン修正(学期2回以上) ○対話的な活動がある授業 ・教材、人、自分との対話設定	○児童自身が解決できた実感をもつ C・D層割合昨年度比20%減 ○解決に向けてよりよい考えをつくる 児童評価 学級力アンケート「つなげる力」3.0以上/4段階	3	△学習後の評価から各児童の学習状況を把握し、個に応じた指導の改善を行うなど、指導と評価の一体化を図る。 ○少人数授業により、各児童が考えを表現できている。また、ICTを使った交流も進めることができている。 △学力向上プランに掲げた共通実践を各教室で確実に取り組み、その成果や課題を定期的に職員全体で協議する。 ○友達との話し合いや教え合いをしながら問題を解決する授業ができた。	A	・学校評価は適切である。一部下方修正の声あり。 ・学年によっては、学力テストの結果が昨年度より下がっていることが気になった。学力向上に向けての取組の成果を期待したい。 ・結果的に昨年度より下降傾向である。この評価は、数値化するのが難しいが、個人なのか全体を通してなのか判断基準を明確にできるようにしてもらいたい。 ・少人数授業は画期的だと思う。 ・学級活動の充実が学びの環境づくりにとてもつながっている。
		○家庭学習の充実 ・自己選択制の課題づくり ・タブレット活用による見取り	○学び方を身に付ける 家庭学習強調週間アンケート「工夫してできた」が80%以上	4	○高学年では自主学習を進め、児童自身による課題の設定やタブレットを使った家庭学習を推進できた。	A	
		○学級活動(1)での集団活動 ・関係づくり部会での指導内容の共有と評価、改善 ・学級力アンケートと連動した目標設定と話し合い、実践	○学級をよりよくする活動 児童評価 学級力アンケート「やりとげる力」3.0以上/4段階	4	○毎月1回以上、各学級で学級会を実践することで、集団で一つのことをやり遂げる達成感を味わうことができていた。その達成感が次の活動意欲へとつながっている。	A	
関連する評価	心の育成 ○関係づくり ○自分づくり ・学級力アンケート全体平均3.5以上 ・学校生活アンケート「自己概念」1.0以上/1.5 「友達との関係」1.4以上/1.5	○活躍できる学級組織 ・一人一役で、役割に対する責任をもたせる活動	○共に働き役に立つ充実感 学校生活アンケート「友達との関係」1.4以上/1.5	4	○学級会や学級組織での活動を通し、学級や学校のために自分の役割を果たす楽しさを感じさせることができた。 △一人ひとりの持ち味を認めながら、自己決定の場を増やし、能動的に責任をもって行動できるようにする。その行動を見取り価値付けしていく。	A	・学校評価は適切である。 ・自己概念が年間を通して改善傾向にある。引き続き子供一人ひとりを見つめ続けてほしい。 ・学校が民児協や学童とも情報共有をしているので、学校の様子が分かりありがたい。地域も共に子供たちの様子を理解し、子供たちとのかかわりを大切にしていきたい。 ・学級活動の充実が学級力の向上につながっている。中学校でも小学校で育てられた力を引き継ぎたい。
		○歴史中三原則の凡事徹底 ・挨拶、掃除・整頓、時間・約束の指導と評価 ・自己選択や自己決定の尊重	○自らを律して行動する力 学校生活アンケート「自己概念」1.0以上/1.5	3	○児童や教師が自分の学級について振り返って目標をもつことで、居心地のよい学級づくりを目指している。	A	
		○「学級力」に基づく学級経営 ・学級力アンケートの実施と分析、児童への価値付け(毎月)	○「学級力」の向上 学級力アンケート全体平均3.0以上/4段階	4	○自分のめあてを持たせ、運動する時間と交流の時間を両立させながら、体力向上に向けた授業展開をしている。 △休み時間や合同体育等、異学年交流を取り入れながら、柔軟体操や体を動かす活動を習慣づけていく。	A	
いじめ防止	体力の向上 ○授業づくり ○体力づくり ・体力テスト「瞬発力」「柔軟性」D・Eの割合25%減	○体力を高める授業実践 ・思考や交流の場(1時間の授業で2回以上) ・運動量65%の確保	○体育科の授業改善 児童評価 「かかわる楽しさ」「動く楽しさ」3.0以上/4段階	4	○自分のめあてを持たせ、運動する時間と交流の時間を両立させながら、体力向上に向けた授業展開をしている。 △休み時間や合同体育等、異学年交流を取り入れながら、柔軟体操や体を動かす活動を習慣づけていく。	A	・学校評価は適切である。 ・体力向上にむけた取組を理解することができた。 ・体育の授業の評価結果がよく、子供たちが体を動かす楽しさを感じながら活動できていることが素晴らしい。
		○体づくりの生活習慣の凡事徹底 ・体育委員会の取組(学期1回) ・大牟田っ子ストレッチ(随時)	○「瞬発力」「柔軟性」の向上 昨年度比D・Eの割合25%減	3	○食や命に感謝する意識が高くなり、残食が大幅に減った。養護教諭や栄養士の取組・啓発も効果的だった。	A	
		○健康に気を付ける凡事徹底 ・給食を生かした食育(残食ゼロ) ・熱中症、病気を予防する行動	○健康に関する児童の実践 児童評価「衛生、残食」3.0以上/4段階	4	○児童会のアイデアを実践に移しながら、学校生活がより楽しくなる新たな取組を重ねている。 ○児童が学級のきまりを話し合って決め、実践するというサイクルにより、きまりを守る行動ができてきた。	A	
不登校防止	○学校に行くのが楽しい子供 ・不登校数昨年度減 ・学校生活アンケート「登校意欲」1.2以上/1.5	○児童主体の安心づくり ・児童会を中心とした異学年交流による美点凝視の企画	○安全で安心できる生活づくり 児童評価 学級力アンケート「安心を生む力」3.0以上/4段階	4	○SCとの面談やSSWとの情報交換等を行い、関係機関と連携しながら取り組んでいる。欠席した際には、担任等から毎回連絡をし、保護者や児童とのつながりを大切にしている。	A	・学校評価は適切である。 ・子供同士で相手を傷つける言葉が使われており、言葉の暴力が心配。 ・子供たち自身が自分たちのアイデアを実現することで、次へのやる気や自己肯定感につながっている。
		○学級活動(2)の実践と改善 ・きまりをつくる話し合いや行動の意思決定と振り返り	○保護者や欠席児童とのつながり 教師評価 「組織的なかわり」3.0以上/4段階	4	○SCとの面談やSSWとの情報交換等を行い、関係機関と連携しながら取り組んでいる。欠席した際には、担任等から毎回連絡をし、保護者や児童とのつながりを大切にしている。	A	
働き方改革	○ワーク・ライフ・バランスがとれた生活が送れる教師 ・「働きがい」「職能開発」3.0以上/4段階 ・超過勤務時間昨年度同程度率	○不登校に対する組織的対応 ・欠席児童・保護者への連絡(「福岡アクション3」常時) ・SSW、SC等との定期的な報告・連絡(月2回以上)	○魅力ある学校生活・学習づくり 学校生活アンケート「登校意欲」1.2以上/1.5	3	△地域の物的・人的資源の活用、学校づくりへの児童の参画を積極的に実施し、体験的活動を促進する。	A	・事案に応じて具体的に協議し、関係機関や中学校との連携を柔軟に変更・改善し、保護者との信頼関係を築いていく。 ・総合的な学習の時間や特別活動において、各学年2回以上、単元等に応じて校外の施設や人材を活用し、学習成果を地域に返す。
		○働き方の意識改善 ・衛生推進委員会による業務整理、検討・実施(隔月1回) ○超過勤務時間の縮減 ・定時退校日の週1回設定 ・2ヶ月スケジュールの共有 ・計画的年休の取得(半年5日以上)	○教職員のアイデアを生かした業務改善、児童の成果の還元 教師評価 3.0以上/4段階 ○先を見通した計画的な業務遂行 超過勤務時間 昨年度2割減	3	△衛生推進委員会で、児童の変容を提示し、職能開発と超過勤務削減の視点から、業務内容を精査していく。 △2ヶ月スケジュールを確実に共有し、各職員の年休取得の達成状況を確認していく。また、偏りがない協働的な業務遂行のための計画・提案を行う。	A	

◇ 評価について ・【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである